ISBN 978-4-924843-90-5

# 明治の錦絵にみる笑いと風物

筑波大学
図書館情報メディア系
知的コミュニティ基盤研究センター
図書館情報学図書館

# はじめに

筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター長
綿抜　豊昭

「お笑い」…　お好きですか？

今日まで、さまざまなジャンルで「お笑い」を目的としたものが作られてきました。浮世絵もその例外ではありません。その一つが「戯画」と称されるものです。江戸末から明治初期まで、複数のシリーズものまで刊行されています。今回、筑波大学知的コミュニティ基盤研究センターと図書館情報学図書館の共催で、前期と後期の二期に分けて、戯画「東京名勝三十六戯撰」を展示します。筑波大学の院生・学生に、こうした浮世絵の存在を知っていただき、研究の一助や物事を考える契機になればと考えたからです。

その昔、新聞記者の取材の心構えの一つとして「犬が人を噛んでも事件にならないが、人が犬を噛めば事件になる」といわれたそうですが、かつて「笑い」も「非」日常の中にありました。「箸がころがってもおかしい」のは限られた人で、一般の人は、日常茶飯事を笑うことはありません。「浮世絵鑑賞はこうでなければならない」という決まりはありませんが、初心者の方には、戯画の鑑賞は、何処が非日常的かを押さえることからはじめることをお薦めします。

かつてフランス絵画では、神話に由来しない女性のヌードは、教養のない、下品なものでした。日本でもエロ・グロ・ナンセンスは、教養のない、下品な者が楽しむものとされましたが、「お笑い」には不可欠でした。その手の「お笑い」は明治初期刊行の「東京名勝三十六戯撰」にも描かれています。

「８時だョ!全員集合」が放映された１９８０年代になると、「おもしろい」ことが重視され、時を経るにしたがって「お笑い」の地位が向上しました。それは「お笑い」だからといって社会的配慮の欠けることが許されなくなることをも意味しました。

お笑いコンビのダウンタウンの人気が全国的になったころからでしょうか、「お笑い」が問題とされるようになっていきました。最近では、性的マイノリティを演じたもの、顔を黒塗りにして黒人を真似たものが問題視されました。近代までなら許されたでしょう。しかし、現代は、社会を構成した原理が上下の階層制にあった近代とは異なり、人の権利は守られるべきものであり、差別やイジメは許されるものではありません。

個人的なことですが、以前、講談社メチエ選書『膝栗毛はなぜ愛されたか』を執筆したおり、あらためて『東海道中膝栗毛』を読み、「笑い」というものを多方面から考える貴重な経験となりました。本展示を御覧いただくことが、何かを考えるきっかけになっていただければ幸いです。

## 昇斎一景「東京名勝三十六戯撰」について

ホントに知る人しか知らないけど「昇斎一景」っていう浮世絵師がいたんだ。いつ生まれて、いつ死んだかもわからない。そして何があったかわからないけど、明治３年から７年までの、たった５年間だけ浮世絵を制作してた。もう２５年ほども前になるけど、町田市立博物館で「昇斎一景　明治初期東京を描く」という特別展が開催されたことがあるくらい、旧風俗と新風俗がいりまじった開花期の東京を描いた、貴重な絵を残してくれているんだ。

でも今回の筑波大学メディアユニオンでの展示のメイン・テーマは「お笑い」だよ。専門的には滑稽な絵のことを「戯画」っていうんだけど、一景は、この戯画を得意としたんだ。今回の展示品「東京名勝三十六戯撰」もその一つだ。でも「ギガ」では、勘違いされるかなっ、と思って、展示タイトルは「明治の笑い」にしたんだよ。

ところで「笑い」の反対語は何だと思う？

入試問題なら「泣き」が正解かな。

で、「雅び」と答えた人は、かなりの「伝統文化」通だねぇ。だって日本の伝統芸能「能」と「狂言」の関係がわかっているということだもの。「浮世絵」だって同じさ。雅びな浮世絵と笑いの浮世絵が対称になるんだよ。

でも、対等ではないんだ。「雅び」があるから「笑い」があるので、その逆はないんだ。「三十六歌仙」という「雅び」があるからこそ、それをもじって戯画集に「三十六戯撰」というタイトルをつけて、そのもじりを楽しんだんだよ。

さて、これから展示品のポイントを解説していくね。ときどき問いを投げかけるけど、答えはいわないから、自分で調べてみてね。今はインターネットを利用すれば、かなりのことがわかるし、画像もみれるしね。でも図書館も利用して、本も使った方がいいよ。だって……（フッフ、ナイショ）

## 目録絵

シリーズものの浮世絵には、バラではなく、セットで求めると「目録」が付くことがあるんだ。図１は「東京名勝三十六戯撰」の目録だよ。この絵、かなりグロテスクだね。でも「元の絵」が何だかわかると、それをエグく描いたから「戯画」なんだとわかるんだ。実は「猫好き」で有名になった歌川国芳の「流行逢都絵希代稀物」も同じ「元の絵」を使っているんだけど、この「元の絵」って何だかわかるかな。ヒントは「鬼の念仏」だよ。

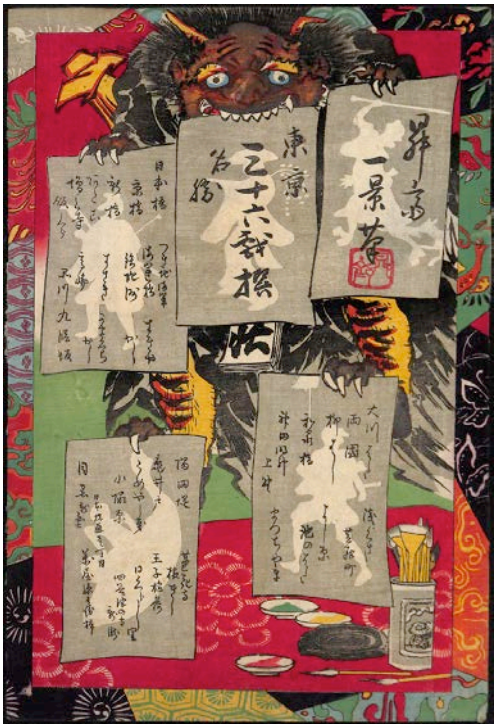



図１　目録

## 花見でドタバタ

トップクラスの浮世絵師なんだけど、歌川広重って知っているかな。江戸の名所を描いた浮世絵をたくさん残しているよ。広重は人気があるから、その作品集も出版されているし、インターネット上にもたくさんあるから、花見を描いたものを、ぜひ見てね。おすすめは「江戸自慢三十六興　東叡山花さかり」だよ。見ればわかるけど、広重が花見を描くと、実に雅び、上品なんだな。では一景の描く花見はどうかな。

下品だよね。でも下品が「笑い」だったんだ。

花見では、芸人が宴席をまわったりしたんだ。この芸人の下品さが「お笑い」なんだよ。図 2 では、女装して三味線を弾く男と、お酒をドボドボとついでいる男が芸人だよ。図 3 では土手の上にいる三人がそうさ。

さて、図２の川向こうの山、なんていう山だがわかるかな。今でこそ富士山だけが有名だけど（図６をみてね)、江戸の北を描いた浮世絵にはしばしば登場する山なんだ。

また図２だと、これが明治のものとはわからないけど、図 3 にはある物が描かれているから、明治とわかるんだ。何だかわかるかな。

図２　隅田川白ひげ辺

図３　日暮し乃里

図４　上野山王山

図５　向しま蓮花寺

図４には芸人がいないけど、目隠し鬼さんの遊技をしている男が突入して宴会がだいなしさ。こうしたハプニングが「お笑い」なんだ。

図５は桜の枝を折って警察に捕まったところさ。困ったものだね。でも、昔は、こういう場面で、第三者は笑っちゃうんだ。悲惨な重犯罪じゃないからね。ところで、捕まっている男の「すってんころり」のポーズ、覚えておいてね、「お笑い」の定番だから。

さてもう一度、図２から図５までみてね。

図２の莚の上の三人の男たち、扇も破れているし、下品だね。図４、図５で敷かれているものが違うって気づいたかな。もちろん赤いの敷いている方が裕福な人たちさ。

図３は右下で下品な男がゲロしている、汚いね。図４も右下に、こぼれたものを漁っている下品な男がいるよ。「下品」は「お笑い」ネタだってわかってくれたかな。

ところで、図５の左下をみてごらん。捕り物であたふたしているスキをねらって、犬が弁当食べちゃっているよ。

「お笑い」に犬はよく出てくるんだ。図６では、子連れの犬が食べてるよ。店の女はアラアラって様子だけど、きっと座っている二人は気付いてないね。それにしても野良犬、困ったもんだね。

図６　目黒

## 動物は自由だね

先にもいったけど「ハプニング」は「笑い」だったんだ。動物はしょっちゅう問題をおこしてるよ。先ほどの続きでまずお犬様に御登場願おう。

図７は、犬が飛びついてクズ屋の籠をひっくり返してしまったハプニングだよ。「くずや」さんのこと、知らない人のほうが多いかもね。昔「くずや、おはらい」といって廃品回収する人がいたんだ。昭和３０年代の日本映画だと、たまに出てくるよ。

図８は、猿回しの猿がポールに登ってしまったハプニングだ。背伸びしている猿回しのつま先立ち、よく描かれているね。

さてここで質問だ。図７は、右上に「牛肉」の旗がなびいているけど、多くの日本人が牛肉を食べるようになったのはいつ頃からかわかるかな。

開化当時の風俗を知りたいなら、仮名垣魯文の滑稽小説『安愚楽鍋』はお薦めだよ。「東京名勝三十六戯撰」と同じ頃の刊行だし、なんたって「牛鍋店」が舞台だからね。

図７　鎌倉河岸

図８　芝増上寺

図９　鉄砲洲

図１０　亀戸天神初卯

図９は、ダブルハプニングだ。二階で猫が喧嘩した拍子に植木鉢が落ちて、通りがかった男に当たってしまった。こりゃ痛そうだ。それを見上げている犬がオシッコをかけてるよ。犬がオシッコをかけてる板、なんだかわかるかな。

図１０は馬が急に暴れ出したというハプニングだ。馬の目、怖いね。乗り手の慌ててる様子がよく描かれている。左下をみてごらん。落ちた物を拾って食べるなんて不潔だね、下品だね。

でも、「欠食児童」って言葉を知っているかな。お腹をすかした人が多かった時代は、けっこう長いんだよ。毎年、行事の食べ物、ケーキとか恵方巻きとかが、売れ残って廃棄される現代とは違うんだ。

ところで、江戸っ子は、正月初の卯の日に亀戸天神の中にある妙義社（現・御嶽社）に参詣し、繭玉を求めて帰るんだ。『東都歳時記』という本にも初卯祭りの絵はあるけど、一景のは、明治にはこんな感じだったとわかる絵なんだよ。ちなみに、今でも行われているから、来年正月になったら参拝したらどう？

さて、ここに入れてよいのか、と突っ込む人もいるかもしれないけど、次は狐だ。

稲荷寿司って知っているかな。くわしい語源は自分で調べてね。狐は稲荷の使いである、とされることと関係あるんだ。今の北区にある王子稲荷は、大晦日になると、関八州の狐が近くの榎木の下で着替えて、初詣すると信じられていたんだよ。この伝説をもとにして描いた広重の浮世絵「名所江戸百景　王子装束ゑの木晦日の狐火」は多くの図録に載るし、北区飛鳥山博物館のホームページでも公開されてるよ。でも、このファンタジーだけでは「お笑い」にならないんだ。

昔の人は、狐狸妖怪は人を化かすと信じてたんだよ。『東海道中膝栗毛』にも、ばけ狐のことはでてくるよ。落語にも「王子の狐」があるんだ。狐は「めぎつね」（もう死語かな）という言葉があるように、美女に化けることが多い。

一景は狐にだまされた男を描いているんだ。狐が二匹いるけど、二人の美女も実は狐、尻尾が見えるかな。後ろに小さく描かれた男達は、だまされた男を捜索中？だまされた男が飲まされている酒や前におかれたお菓子（たぶん「ぼた餅」）が実は何だかわかると、もっとおかしいよ、かわいそうだけどね。右端にみえる木は、伝説をふまえて榎木だろうね。

ちなみに「王子の狐」で土産品の「卵焼き」がでてくるんだ。今は、かつて広重「江戸会亭尽　王子」で描かれたこともある扇屋で卵焼きを買えるよ。

図１１　王子

## あぁ～ご災難

ハプニングは、時に「ご災難で」としかいいようがないのだが、他人の不幸は笑っちゃうんだね。もちろんいけないことなんだけど。

まずは、スッテンコロリ( ・_・;)

図１２　日本はし

図１３　柳原元和泉はし

図１２は、広重の「東海道五十三次」にも描かれている日本橋だよ。洋装の人もいるし、なんたって橋が石畳になっているし、レンガ館が建っている、明治だね～。

橋のところで、何か黄色い液体がこぼれて、それにすべった人力車の車夫が、旅人の腰に蹴りをいれてしまった絵だよ。この黄色い液体、犬が嘗めているから、オシッコの類ではなさそうだ。すべる、というところから考えて油系のものかな。

図１２は男性だったんで、図１３では女性のすべっているところを描いたものにしたよ。どうしてかわからないけど、何か土のようなところですべっているよね。右端では女性が着物の袖で顔の下をおおい、男性は扇子でおおっている。これが笑っている口を隠しているのではないことは、左端の男性を見るとわかるよ。鼻をつまんでいる、つまり臭いんだ。たぶん女性は肥料用に回収された汚物等にすべったんだ。臭いわけだよね。

図１４　さる若町

図１５　亀戸梅やしき

図１２、図１３でわかったと思うけど、スッテンコロリしただけでは駄目なんだ、＋αがないとね。

図１４は、転んだときに、客席の男の人にお茶をこぼしちゃったんだ。とんだ災難だ。お茶が下半身にかかって濡れると、オシッコ漏らしたようになっちゃうよね。

この浮世絵、猿若町の劇場内を描いているんだ。それまでばらばらにあった中村座、市村座、森田座がここに集められ、明治の初めころまで芝居の町として栄えたんだ。当時はこんな観客席だったんだよ。今だと、愛媛県の内子座に行くと、この雰囲気が味わえるかもね。

図１５は亀戸にあった梅屋敷の光景だよ。スッテンコロリして、跳ね上げた縁台のアッパーくらった女性が鼻血だしてるなんて、酷だねぇ。

梅屋敷に関しては、広重の傑作浮世絵「名所江戸百景　亀戸梅屋敷」（ゴッホも模写してるんだよ）があるから、図録とかインターネットでみてね。梅屋敷は明治４３年の洪水被害で廃園になっちゃって、今は碑が立っているだけだけど、それをモチーフにして建てられ、亀戸の名産品が買える複合商業施設「亀戸梅屋敷」があるから、亀戸天神とセットでみてくるといいかもね。

図１６　品川

図１７　根岸の里

図１６は、階段でスッテンコロリした男性の足が、女性の顔にあたったんだね、横に女性が持っていたとっくりが転がって酒をこぼしている。こういう、構えていないときの蹴りの一発は、さぞかし痛かっただろうね。たぶん、その時に女性の左手が、後ろにいた付き添いの子にあたったんだ。廊下に壺らしきものがひっくりかえっているもの。

品川は今でも繁華な町だけど、昔も栄えていてね。東海道を下る人が一休みしたりしたところなんだ。どんなお店があって繁盛していたか、調べてみてね。そうすると、ここにいる女性たちの職業もわかるよ。

図１７は、蛍狩りでのスッテンコロリだ。夜なんで水路がわからず、すべってしまったんだね。その拍子で虫籠が飛んじゃっているよ。虫籠のすぐ横、まるで吹き出しのように蛍火が描かれている。もしかしたら虫籠から蛍が逃げているのをあらわしているのかも。スッテンコロリして何か起きないと一景らしくないからね。

当時の蛍狩りの様子がよくわかるし、団扇で蛍を追っている女性、着物の柄も、いかにも夏らしく朝顔の花なんて、いい絵じゃないか。ちなみに蛍って雅な世界では「夏虫」っていったりするんだ。夏の虫なんていっぱいいるのに、その代表なんだ。知ってた？

次は落下物によるハプニングの笑いだよ。

今は、飛んでいる飛行機やヘリコプターからの落下物や、そのものが落ちてくる時代だけど、その昔も落下物はあったんだ。

図１８　芝飯倉

図１９　柳はし

図１８は、お風呂屋さんの二階で、裸でくつろいでお茶を飲んでいた男が、誤って茶碗を落として、そのお茶が階段をのぼってくる男の顔にかかっちゃった、というところかな。水ならまだしも、お茶だったら「アチッ！」だね。

階段の下に裸の女性がいるの、わかるかな。こうしたお風呂屋さんの構造ってどうなっていたんだと思う？興味があったら調べてね。

ちなみに今ならコンプライアンスにひっかかって放映がむずかしいと思うけど、昔、「大江戸捜査網」という時代劇で、お風呂屋さんの二階がよく登場したんだよ。

図１９は、柳橋を渡っていた人が、商品の傘を落としちゃって、たまたま下を通っていた舟の女性にあたっちゃうハプニングだ。棒状の傘が女性の下半身を直撃するところを描くなんて、すけべな人の、いやらしげな笑いを誘っていること、見え見えだね。

図２０は、両国の花火だ。これを描いた浮世絵は、それは山ほどあるけど、この絵はとても珍しい。なんたって、花火が見物している舟中の男性の顔にあたっているんだもの。アッチッチッチ、こりゃ大火傷だな。雅な浮世絵が描く光景ではない。戯画ならではのものだ。

図２０　両国花火

図２１　大川はた百本杭

図２１は鰻釣りをしていて、お祭り、つまり釣り糸がからまっちゃって、おおあわてしているところだ。これがハプニングだ。でもそれだけじゃ物足りないと思ったんだろうね、雨風であわてる様を描いている。風が吹いているのは、雨が斜めに降っているからわかるよね。

さて、左下の女性、風が吹いているから前傾姿勢で急いでいるよ。よくみるとそのすぐ後ろに笠をかぶった子供がのけぞっている。どう読み解いたらいいんだろうね。のけぞるのは普通の姿勢じゃないから、非日常的なことはわかるんだけど、滑ったのかな。

また左下には三人の目の不自由な子供が描かれていて、三人は乗れないので車夫が困って頭を掻いている。どうすることになるんだか、心配だね。

次からは、残ったハプニングをまとめてあげちゃうよ。

図２２　数奇屋河岸

図２３　九たん坂

図２４　芝口橋

図２５　洲崎汐干

図２２は、炭酸系の飲み物（グラスの感じからすると、シャンパンかな？）をたぶん振るなどしちゃったんだよね、びんから液体が噴き出して顔を直撃している。この手の笑いは、今でも「お笑い」番組で、ときどきみかけるなぁ。この絵の描かれたころって、炭酸系の飲み物って、日常的に飲まれていたと思う？ぜひ調べて欲しいところだ。

図２３は、天秤棒で運ばれていた、西瓜などを入れていた籠のひもに、西洋傘の持ち手のところがひっかかって、棒からはずれた籠から西瓜がゴロゴロと転がっている絵だよ。和傘は、持ち手がまっすぐだけど、洋傘はくるりっとしているから、何かにひっかかりやすいんだ。「お笑い」の劇などでは、よく他人の足にひっかけて転ばす小道具に使われていたよ。

よくみてもらうと下の男性、西瓜をネコババしてるよね。困ったもんだ。子供が万歳しているけど、びっくりして手をあげているんではなくて、西瓜を待ち構えて、「さぁ来い」って、諸手をあげているのかもね。

図２４は、はしごネタだ。『東海道中膝栗毛』にもあるんだけど、はしごを運んでいて、そのはしごが後ろの人にぶつかるなどしてハプニングが起きる笑いは定番だったんだよ。

図２５は、おならブーの笑い。下品だね。大きなお尻から、おならを点線で描くなんて、たいしたもんだ。潮干狩りをしていた二人の男性のポーズ、どんなに臭かったか、よーく伝わってきます。

## お笑い芸人

図２６　新吉原

地方のキャバレーをまわって、芸を披露して、日当等を得る芸人さんのお話、聞いたことがあるかな。曲芸だったり、話芸だったり、いろいろあるけど、「お笑い」芸もその一つだったんだ。

芸人さんの中には、明治維新以後、欧米化して、ピエロ風になった者がいたんだ。これは、それを描いた一枚だよ。（図２６）

左手に洋傘、右手に扇子なんて、まさに和洋折衷だね。

「新吉原」での一場面を描いたもので、手を上げて見ているのがお客さんで、女性は今風にいえばＮｏ１ホステスだよ。かんざしがすごいね、蟹の足のようだ。子供はその付き添い。「吉原」って、どんなとこだったかは、自分で調べてね。

## いたずらにも困ったもんだ

「いたずら」って漢字で書くと「悪戯」なんだ。「戯画」の「戯」が入っているね。

図２７　小塚原

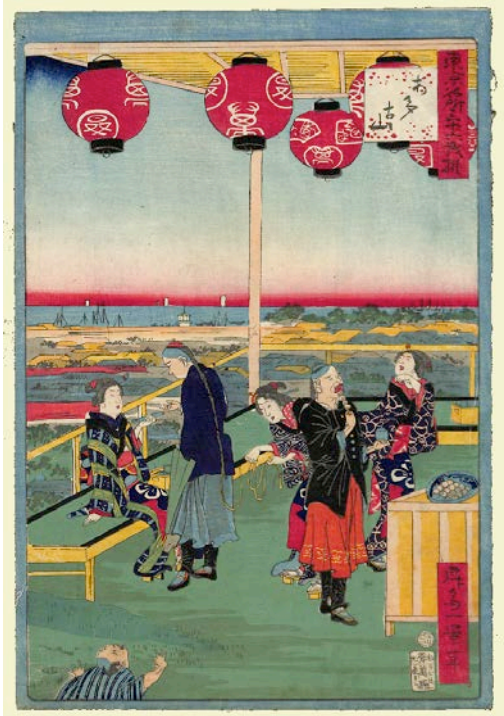


図２８　あ多古山

図２９　つきし海軍所

図２７は、竹馬に乗った子供が、仕出し料理を食べちゃっているよ。今なら犯罪だけど、ユルイ時代だったんだね、男の人が笑ってみてる。同じようにこの絵をみている人も笑ってたんだ。

図２８は、弁髪の人の髪に紐を結んでいるよ。たぶんこの後、もう一人の弁髪に結びつけちゃうんじゃないかな。今なら国際問題だ。

日本人ばかりがいたずらするんじゃないんだよ。

図２９は、築地にあった海軍兵学寮のイギリス教官団に所属する、背の高い、大きな外人さんが、日本人をびっくりさせている絵。女性がスッテンコロリしているね。

## 喧噪は、当事者以外は「笑い」である

「他人の不幸は蜜の味」っていうけど、自分に被害が及ばないなら、ドタバタした喧噪は「笑い」であった。ここではそうしたものをみていこう。

図３０　池の端不忍弁天遠景

図３１　開運はし

図３０は、男女に分かれて雪合戦をしている絵だね。合戦をしている人たちは真剣だけど、それをみている人は、のんきに笑っているよ。たぶん右端で椅子に座っている老人が主催者で、この喧噪を楽しんでいるんだ。その横にいるのはお嬢さんかな、お孫さんかな、暖かい火鉢の横でくつろいじゃっている。

図３１は洋館を背景に、見世物の写真を撮ろうとしてたら、目の不自由な人が、それと気がつかず突っ込んできて、撮影がだいなしになった絵だよ。とんだハプニングだね。

この橋、開運橋といって、明治８年に石橋になるまで木橋だったんだ。後には関東大震災で崩壊するんだ。後ろの洋館、なんだがわかるかな。ヒントは渋沢栄一かな。ぜひともつきとめて欲しいな。

図３２　高なわ

図３３　京はし

さていよいよ今回展示の最後の二枚だ。

図３２は、おそらく人足さんたちの喧嘩をえがいている。自分が殴られたり、蹴られなければ、見ていて楽しかったんだろうね、右端のお兄さん、どうみても楽しそうに笑っている。

この絵は高輪を描いたものなんだけど、注目して欲しいのは汽車なんだ。いつごろ、ここ走っていたか調べてみてね。

図３３は新橋だよ。鉄道といえば「新橋」なんだけど、ここではまだ馬車が描かれているね。馬車の車輪がはずれてスッテンコロリだ。

図３２では吠えていた犬が、図３３では事故に巻き込まれて車輪の下に。きゃぃーん、という悲鳴が聞こえてきそうだ。

ちなみに、新橋駅から歩いて５分ぐらいかな、「旧新橋停車場鉄道歴史展示室」という展示施設があるから、鉄道に興味あるなら行くといいよ、なかなか楽しいかも。

もう一度錦絵を見ながら、これまでの解説を振り返り考えてみよう。

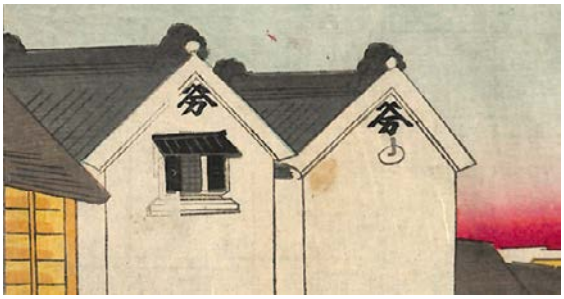
**【食文化に関して。これっていつから？】**

①炭酸飲料っていつ頃日本の食卓に登場したの？

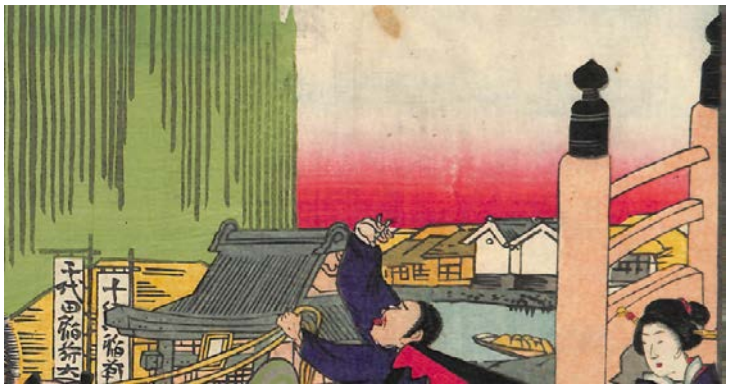
②明治期では、どんな牛肉料理があったの？

**【これはどこ？】**

①蔵に描かれている文字から、この蔵が何を所蔵しているのかわかるの？



②今のどのあたりの風景？



**【いろんな服装の女の人がいるね】**どの錦絵の登場人物かな？

①

②

③

①お風呂屋さんで見かけた
②背中の子供は兜の帽子？
③給仕さん、ポットがおしゃれ

④傘が外出必須アイテム？
⑤定番のおいらん姿
⑥潮干狩りのスタイル

④

⑤

⑥

**雑貨など**

⑦

⑧

⑦火鉢？
⑧虫かご？

**【いろんな服装の職業の方がいるね】**どの錦絵の登場人物かな？

①

②

③

④

⑤

⑥

①見世物の山車を引くパフォーマーさん？
②ステッキが粋！　何をしている人？
③おまわりさん？
④お店の半被姿で出前持ち
⑤ポールの上に猿が！
⑥外国の人、お団子美味しそう

## 【１枚の絵から視点を広げてみよう】

１枚の絵には名所、風俗など様々なものが描かれているね。１枚の絵からちょっとだけ疑問をもち、さらに他の時代の絵と見比べてみると、文化の変遷も垣間見ることができるよね。

図　３５　「芝口橋」より

図録編集

編集：　時井　真紀
　　原澤　仁美
執筆：　綿抜　豊昭（　１頁～１７頁）
　　時井　真紀（１８頁～２１頁）
表紙デザイン、撮影協力：　瀧澤　晴奈

展示「明治の錦絵にみる笑いと風物」

第１期　平成２９年１２月２５日（月）～平成３０年２月２３日（金）
第２期　平成３０年　３月１９日（月）～平成３０年４月２７日（金）
会場　　筑波大学春日エリア メディアユニオン１階
　　図書館情報学図書館メディアミュージアム

展示物の資料提供：　綿抜豊昭研究室
展示担当：　綿抜　豊昭、時井 真紀
展示協力：　図書館情報学図書館職員

２０１８年２月２５日　発行
発行　筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター
　　〒３０５－８５５０　茨城県つくば市春日１－２

印刷　谷田部印刷株式会社
　　〒３０５－０８６１　茨城県つくば市谷田部１９７９－１